

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：35414

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593274

研究課題名(和文) 誤嚥を予防する食事支援のためのポジショニング教育スキームの汎用化

研究課題名(英文) A generalization of the positioning education scheme for meal support to prevent aspiration

研究代表者

迫田 綾子 (Sakoda, Ayako)

日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授

研究者番号：70341237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ポジショニング教育スキームの汎用化として、「ポジショニングで食べる喜びを伝える=POTT(ぼっと)プログラム」を開発した。汎用化教育及び評価は、摂食・嚥下障害看護認定看護師が所属する9施設で実施し、コアナースからスタッフへと対象を177名に拡大した。

効果評価では、ポジショニング技術はほぼ全員が習得し、スキル点数は研修直後14.7点から3ヵ月後19.1(21点満点)に向上した($P<0.001$)。包括的徒弟式学習法が効果的であった。患者への影響評価は、食事時間短縮、摂取量増加、食欲増加、むせの減少等がみられた。最終成果は、足底接地用シート開発、著書、最終報告書である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is a generalization of the positioning education scheme for meal support to prevent aspiration. The first year, to subject the dysphagia certified nurse, it was extracted the elements of the positioning current status and education scheme of the FGI. Then, we have developed a "tell a joy to eat in positioning = POTT program." The formations of this are "basic technology", "learning experience", and "coaching".

177 nurses are participated in the 9 hospitals for POTT program. Regarding evaluation of this program, the score of Skill was improved from 14.7 points to 19.1 (21-point scale) ($P<0.001$) after three months. All other research verified its validity too. Additionally, assessment of patient were shortening meal times, increasing amount of intake, and decreasing choking. Therefore, it is possible for positioning education scheme to be generalization by POTT program.

研究分野：基礎看護学

キーワード：誤嚥 摂食嚥下障害 食事支援 ポジショニング 教育 汎用化

1. 研究開始当初の背景

高齢者の摂食嚥下障害に伴う誤嚥性肺炎は、増加し続けている。また窒息は、不慮の事故で第一位である。また近年、摂食嚥下障害のある人々の胃瘻造設は、意思決定を含む倫理的な課題や経済的負担を含め社会問題化している。それ故、自分の口で食べて生涯を平和に終えたいと願う人々の最大の課題は、誤嚥や窒息予防であると言える。

研究者らは、誤嚥は脳血管障害や認知症に代表される器質的及び機能的な原因の他に、看護援助に関わる要因があると考えてきた。

看護師によるベッド上での食事介助は、よく患者の体がずり落ち、頸部は上向きとなり誤嚥リスクが格段に高まっていた。患者は、看護師が姿勢を直すたびに食事を中断し、食欲を減退させる。一方看護師は、食事中に崩れた体を持ち上げ修正することを繰り返す。この現状から研究者らは、摂食嚥下障害のある人に対し、効果的なポジショニングによる食事支援は、誤嚥を予防する重要な看護ケアであると考え、3年前から関連の研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、摂食嚥下障害のある人々に対し、看護師による誤嚥予防のための食事時の適切なポジショニングの教育スキームを構築し、汎用化することである。教育スキームは、研究者らが平成 23 年度までに研究(基盤(C))で作成したポジショニング教育モデルを基盤とした。

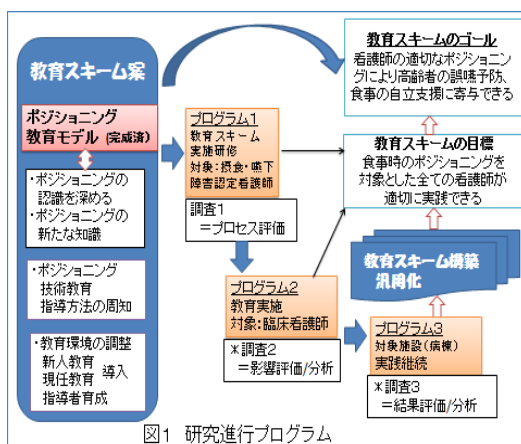


図1 研究進行プログラム

【調査1】ポジショニングニーズ及び教育スキームの構成要素の検討

3. 研究の方法

- (1)対象者:摂食・嚥下障害看護認定看護師(以下、認定看護師)で研究協力の了解が得られた者6名とした。
- (2)調査期間:平成25年2月~5月。
- (3)調査内容:フォーカスグループインタビュー法とし、ポジショニングに関して臨床での状況や体験等を自由に語ってもらった。
- (4)分析方法:インタビュー内容は、畜語録としてデータとし質的に分析した。得られた結果をカテゴリー化し、ポジショニングの現状や教育スキームの構成要素を抽出した。併せてポジショニングデルの再検討及び教育方法を明確化した。
- (5)倫理的配慮:本学研究倫理審査委員会の承認を得た後に実施した(審査番号1231)。対象者に対しては、研究方法及び内容について説明をし了解を得た上で実施した。

4. 研究成果

(1) ポジショニングの現状

入院患者の多くは、誤嚥や肺炎のリスクを有していた。患者の食事時姿勢は、適切なポジショニングが実施されず不良姿勢が多くみられた。看護師のポジショニングの実施状況は、プラス要因ではチームや認定看護師による介入があった。マイナス要因は、個々の看護師の判断や習慣的なポジショニングの継続があがった。

認定看護師は、ポジショニングについての実践、指導、相談の役割を果たしていた。しかし施設内の活動では、それぞれが課題を抱えていた。ポジショニング教育は、対象を新人、スタッフナース、リーダー、リンクナースなど種々であり、教育内容も個々で工夫していた。教育による普及は、知識と行動が結び付かない状況があり病棟、病院全体共には広がっていなかった。

(2) ポジショニングの教育の方向性

新たな技術となるポジショニング教育では、「イメージ化」「ペアで実施」「体験する」「リンクナース（コアナース）の参加」「研修後に評価する」などが抽出された。教育内容は、「技術の簡略化」「基礎を入れる」「できる喜びを感じてもらう」「人に伝達できる」「教える側の学習とトレーニング」「評価を入れる」等を抽出した。ポジショニング教育の成り行きは、看護師の技術向上で患者の誤嚥予防や食事の自立ができることの効果が抽出された。

(3) 誤嚥を予防する食事時のポジショニング教育スキームの構築

ポジショニング教育プログラムは、「POTT（ぽっと）プログラム」と命名した。「ポジショニング(P)で食べる(T)喜びを伝える(T)」の略である。臨床看護師が親しみをもって取り組めるように願いを込めた。

ポジショニング教育の理論的構成要素と実践の方向性は、“包括的徒弟式学習 apprenticeship”を取り入れ、知識とスキルを適切に提供できることを目指した（ベナー 2011）。加えて自己効力感をあげて新たな技術を習得し継続させるため、体験的学習を取り入れた（バンデュラ 1997）

体験学習は、看護師の感情を刺激し行動が次のステップへの道になり、スキームを汎用化できると想定した。POTTプログラムの伝承は、下記の図に示す。

プログラムには、効果的な技術指導のために“教えるコツ、学ぶコツ”を入れ、「基本技術」「体験学習」「コーチング」を3本柱とした。実施後は振り返りで共通理解を深めた。

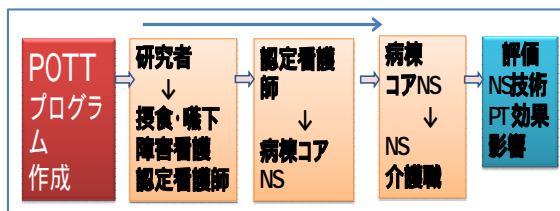


図2 POTTプログラムの進行と対象者

【調査2】誤嚥を予防する食事時のポジショニング教育プログラムの汎用化

3. 研究方法

- (1)研究参加者：認定看護師の所属施設勤務の看護師で POTT プログラムを受講した 177 名。
- (2)調査期間：平成 26 年 1 月～平成 27 年 1 月。
- (3)調査方法：調査前 POTT プログラム研修実施。包括的徒弟学習法を取り入れ研修。教育は、認定看護師 コアナース スタッフナースへと、少人数で連続的に技術伝承を行った後に、効果及び影響評価を調査した。
- (4)調査内容： POTT プログラム研修前後スキル評価を 4 段階評価とし 21 点中 20 点以上を合格点とした。効果評価；研修会実施時及び 3 ヶ月後、影響評価：患者へのポジショニング実施前後の食事等の変化。
- (5)分析方法：各施設の回答を一元化し、統計的に検討を行った（StatView-J 5.0）。
- (6)倫理的配慮：本研究倫理委員会の承認及び、対象施設では個別に倫理委員会の承認を受けて実施した。介入は、患者本人及び家族へ説明し了解を得た上で実施した。

4. 研究成果

ポジショニング教育プログラム（POTT）の効果及び影響評価を実施し、汎用化の可能性について以下の結論を得た。

ポジショニング教育プログラム（POTT）は、看護師の技術向上や継続ができており、その妥当性が証明された。研究参加者は当初の 9 名の認定看護師看護師から、最終的（1 年後）には 177 名となり汎用化が図られた。参加者は上級者～熟練者が 71%と多く看護実践力や影響力のある人の選定が効果的であった。

誤嚥リスク患者のポジショニングは、医師の指示や看護計画がないものは 52%であり、看護師による習慣的なポジショニングが行われており施設間で有意差が認められた。ポジショニング技術の習得は「できた」「ほぼできた」が 99.4%、他の看護師へ伝えることができると全員が回答した。

研修前に比べて適切にできる技術は、「リクライニング角度」で91%となっていた。続いて「誤嚥の観察」「環境を整える」「食形態の工夫」等であり、全体的に技術の向上がみられた。

ポジショニングスキルは、研修直後 14.7 点、3 ヶ月後は 19.1 点と向上し有意差がみられた ($P < 0.001$)。少人数研修で受講者が次のスタッフへ伝承する方式が、スキル向上につながった。

ポジショニングの対象患者は、80 歳台が最も多く、栄養方法は経口、経口+胃瘻が 87% であった。状態は、誤嚥リスク、ADL 低下、麻痺、認知障害等であった。ポジショニング影響評価は、対象患者の食事時間の短縮、食事摂取量の増加、食欲の増加、食事時の表情の変化、むせの減少がみられ、食事時の適切なポジショニングが重要な要素であることが明らかになった。

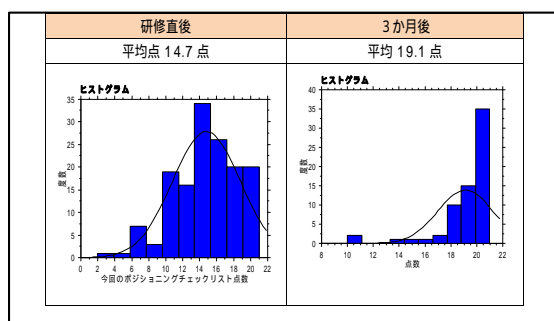


図3 研修直後と3か月後のスキル点数比較

5、総括

ポジショニング教育スキームは、効果評価、影響評価結果から、適切なプログラムであり汎用化が可能だと考える。研究開始から協力者の認定看護師9人から最終的には177名に達することができた。スキルも3ヶ月後に上昇していることは、研究参加者が新たなポジショニング技術の実践へと行動変容ができたといえる。知識とスキルを適切に提供できる包括的徒弟式学習法として、取り組んだ成果ともいえよう。研修会の中で、患者体験を通して評価をしながら進行したことや、他者に伝えることで次々と看護師が成長したこ

とは、看護の魅力を再発見したプロセスでもあった。

本研究の総括から、今後の展開へ向けて以下の取り組みを最終的に行った。ポジショニング教育スキーム (POTT プログラム) の再構築、ポジショニングチェックシートをベッド上、車椅子用を「食事前のポジショニング」「食事介助」「食後のポジショニング」で100点満点として再構成、ポジショニングを基本ケア技術とチームケアしてとらえるよう、摂食嚥下障害患者への食事ケアの枠組みを再構成、ポジショニング教育スキームをさらに汎用化するため、POTT 研究会を発足、足底接地用ポジショニングシートの開発最終報告書発刊 (94 ページ) である。

POTT プログラム研修の中で、NST リーダーの内科医師は患者役を体験し、「全国の看護師が、POTT ができるようになれば誤嚥性肺炎は半減するのではないかとコメントをいただいた。POTT プログラムは、参加者の反応やその後の実践や拡がりを見ると、看護のイノベーションとして確かな手ごたえを得ている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

- (1) 迫田綾子他、日本看護技術学会第13回学術集会 .2014.11.22~23.京都テルサ(京都市)
- (2) 杉本みほ、迫田綾子他、ポジショニングで食べる喜びを伝える POTT (ぼっと) プログラムのスキル伝承. 日本看護技術学会第13回学術集会 . 2014.11.22~23. 京都テルサ(京都市)

〔図書〕(計 2 件)

- (1) 迫田綾子編集、三輪書店、ナース必携 誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケアはじめからおわりまで、2013.5 . 173
- (2) 迫田綾子他、老年看護学技術 高齢者の健康障害と看護技術 摂食嚥下障害、メヂ

カルフレンド社 . 328(169-201).

小園由味恵 (Kozono Yumie)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

迫田綾子 (Sakoda Ayako)
日本赤十字広島看護大学 看護学部
教授
研究者番号：70341237

(2)研究分担者

原田裕子 (Harada Youko)
日本赤十字広島看護大学 看護学部
助教
研究者番号： 24593274

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者

竹市美加 (Takeiti Mika)
金志純 (Kimu Shizun)
杉本みほ (Sugimoto Miho)
竹岡雅美 (Takeoka Masami)
中村清子 (Nakamura Kiyoko)
繁村亜矢 (Sigemura Aya)
龍里智子 (Tatuzato Tomoko)
杉元公美子 (Sugimoto Kimiko)
石田敬子 (Isida Keiko)
湯浅 愛 (Yuasa Ai)

以上 摂食・嚥下障害看護認定看護師

北出貴則 (Kitade Takanori)
藤井光輝 (Fuzii Mituteru)